

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2022年度 第4号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2023年3月28日発行



巻頭言

「ボクは体育がキライだ」

関西英語教育学会副会長 横川 博一（神戸大学）

最近、「ボクは体育が嫌いだ」という話を、機会があればよくします。子どものころ気管支喘息だったことも大きいのですが、5人で走ればいつも5番だし、プールで一生懸命水を掻いても全然進んでいないし、体育も運動会も大嫌いでした。小学校の頃は嫌々ながら体育の授業も運動会も出席・参加していましたが、中学校にあがってからは、見学したり保健室でさぼっていました。嫌いなものですから、大人になってからも進んで運動することはありませんでした。さすがに今は、年齢を重ねて、そういった学校教育の呪縛からは解かれて、ときどきウォーキングしたり、遠出して散策したりしていますが(笑)。

あるとき、千葉県公立小学校教諭の松尾英明先生のことばが目に留まりました。私なりに要約してみます。話題は、小学校でやる「持久走」。その目標は「気持ちよく数分間走り続ける」こと。しかし、「校内マラソン大会」なんぞやると「昨年より順位を上げるぞ!」とポジティブに頑張る子どももいるものの、「絶対にやりたくない」というネガティブ派もいて、多くの観衆がいる中での競争は苦行そのもので、体育嫌いを増やすことになると言います。繰り返しますが、小学校の持久走の目標は、気持ちよく数分間走り続けることなんですね。だから、持久走の指導で大切なことは、「走ることで気持ちいい」とか「(やってみたら)自分にはこんなに長い時間走れる力があるんだ」と気づかせること、そしてそういう経験を通して、「長く走るにはゆっくり走る必要がある」などというストラテジーを学ぶことです。走っ

た周数を競ったり、多く走った子どもを称賛するのではなく、「5分間歩かずに走り続けられた」ことを評価しようと松尾先生は言います。

松尾先生のおっしゃることは、英語教育でも同じことが言えそうです。「みんな同じことが同じレベルでできるようになる」と盲信して、子どもたちをいたずらに煽っていないでしょうか(「煽り」運転はダメですね)。無用な負荷をかけたり、いたずらに恐怖心を植え付けてはいませんか。

今年に入って間もなく、「英語嫌いにさせない! 英語好きの小学生が減少、中学生は成績が二極化の傾向 その原因は?」という朝日新聞の記事が話題になりました。記事によれば、CEFRA1 レベル(英検3級相当)以上の英語力がある中学3年生は年々増加している一方、中学1年生の時点で成績が二極化してしまっているということです。これには、小学校英語の教科化、中学校の授業の前倒し、小学校での英語学習を前提として中1の最初のレッスンから複数の文法事項が詰め込まれていること、授業時間数は変わらないのに教えることが増えていることなど、その原因がさまざまな観点から分析されています。

私たちは、「文法知識」とか「英語運用能力」などと言って、「知識」、「技能」、「能力」といったことばを簡単に使っています。しかし、「知識」、「技能」、「能力」って本当はどういった性質のものでしょうか。そんな視点から、英語科教育の目標や授業のあり方を捉え直してみる必要があります。そこに解決の糸口の一つがあると考えています。

報告 第26回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

2023年2月12日 オンライン開催

今年度最後のセミナーをオンラインで開催しました。卒業論文・修士論文を完成させた学生さんと、将来の英語教育をともに考える語らいの場です。研究発表は卒業論文11本、修士論文1本がありました。発表者への大変貴重なご助言をいただきました。コメンテーターの先生方に、心から御礼申し上げます。また、ランチョン・セミナーでは『現職教員に聞く「いま」と「これから」』と題して、山村京子先生（京都府亀岡市立東輝中学校）、佐古孝義先生（京都教育大学附属高等学校）に、英語授業の悩みに答え下さいました。さらには、スペシャル・トークの講師に竹内理先生（関西大学 外国語教育学研究科・外国語学部 教授）をお迎えして、ご講演いただきました。本年度を締めくくるのにふさわしいご発表・ご講演、そして参加いただきました153名の皆様に御礼申し上げます。

<スペシャル・トーク>

「信じれば救われる？—英語学習における自己効力感、学習方略、自己調整の役割について」

講師：竹内 理先生

（関西大学 外国語教育学研究科・外国語学部 教授）

竹内先生には、英語学習における自己効力感、学習方略、自己調整の役割について理論的背景をもとにお話しいただいた。

まず、やる気スイッチの話から、「信じること、感ずること」の強力さについて理解することができた。次に、そこで関連してくる言語学習におけるピリーフ（信念）についてお話いただき、学習者の信念の重要性を再確認した。学習者の良い信念がもたらす影響の重要性を痛感するお話であった。

学習方略と自己調整のお話を、現在の英語教育の「主体的に学習に取り組む態度」の観点からお話をいただき、『新学習指導要領』の目指す、資質・能力に関しても動機づけの観点から考える良い機会を得た。特に、「Agency（主体）= Goal + Skill + Will（Murphey, 私信）」という言葉は、非常に面白い考え方だと感じた。現在、小・中・高等学校において

は、この「主体的に学ぶ」ということが重要視されている。また、小・中・高等学校で育まれた英語学習への主体性を大学英語教育ではさらに伸ばさせていくことが求められていると考える。したがって、竹内先生のお話は、小・中・高等学校及び大学で英語を教える立場の教員にとって大変興味深く、勉強になるお話だった。

また、英語学習への自己効力感について、4つの要因（達成経験・代理経験・言葉の説得・感情の状態）のお話をいただき、どのようにして、その情報源を高めるかについて考える良い機会を得た。英語教員にとって、児童・生徒・学生に成功体験を積み重ね、自己効力感を持たせる授業が非常に重要であると再認識した。また、自己効力感が、様々な力（4技能や文法・語彙）と密接に関係していることが研究で示されていることから、児童・生徒・学生の自己効力感の向上は必須であると考えられる。学習者の自己効力感を高め、自己調整ストラテジーを有効に活用することで将来的な成果につなげるという媒介モデル（自己効力感 → 自己調整ストラテジー → 将来の成果）は非常に示唆に富むものだと考える。近年のエンゲージメント研究の発展も伴い、「自己効力感 → 自己調整ストラテジー → エンゲージメント → 将来の成果」という上記を発展させた媒介モデルに関しても非常に興味深いと感じた。そして、上記の要因がサイクルをなして、うまく循環することで、英語学習が効果的に進んでいくのだと強く感じさせられた。

まとめると、「自分は英語学習に成功することができると強く信じ、自分の学習をコントロールするすべを身に付け、行動に移し、成果を認識する」というプロセスを何度も循環させていくことで、自律的で有能な英語学習者へと成長していくことができる可能性を秘めているということである。

私は、今回の竹内先生のお話から学んだ多くの知識を、小・中・高等学校及び大学での英語教育の発展につなげていくことができると信じて、自己調整をして、行動に移していきたいと強く思った。

報告者：染谷 藤重（京都教育大学）

＜発表者体験記＞

“Effects of Task Repetition on L2 Fluency and Speaking Anxiety Among Elementary-level Japanese EFL Learners”

北野 功樹 (拓殖大学大学院)

今回はこのような発表の機会をいただき誠にありがとうございました。また、多くの皆様方にご清聴いただき、ご意見をいただけたことに対し、深く感謝申し上げます。特に、コメンテーターの新谷奈津子先生におかれましては、今後につながる貴重なご意見を頂戴することができ、大変嬉しく存じます。

今回は、タスクの繰り返しが英語初級学習者の流暢さとスピーキング不安に与える効果に関して発表させていただきました。当発表で強く感じたことは、定義付けの重要性です。例えば、タスクとは何か、タスクの繰り返しとは何か等です。定義が曖昧であると研究が何を目的としているかが伝わりづらくなってしまおうということを学びました。また、定義の曖昧さは知識の浅薄さ故に生じる部分であることも痛感しました。先生方からのご意見や私自身の気付きが大きな成長につながるかと信じてやみません。

4月からは大学で非常勤講師を務め、英語教育に携わりつつ研究を続ける予定をしております。大学院生の中に学会で発表できたことは駆け出しの研究者として非常に大きな経験となりました。研究実績を重ね、「私の研究者としての始まりは卒修論セミナーでした。」と言える日が来るように今後も精進していきたいと存じます。

“The Effects of 4/3/2 Activity on Learners' Fluency Development in an EFL Context”

白坂 水樹 (立命館大学)

コロナウイルスの感染拡大が未だ懸念される中、オンラインで発表の機会を設けていただいたこと、心から感謝申し上げます。他の方の発表やご講演から新しい知見を得たことはもちろん、頂いたコメントも新鮮で、これまで学会発表の経験がない私にとって、非常に有益な学びの機会になりました。

今回のセミナーでは、主に EFL 学習者の流暢さの発達について発表をいたしました。研究では、短いバージョンの 4/3/2 活動の有用性が明らかになったことに加え、一口に流暢さと言っても、学習者が自ら気がついて改善できる要素もあれば、反対に

改善しづらい領域もあることが考察から導かれました。このことについてコメントでは、「減少が一部有意に認められなかった filler や pause といった要素は、そもそも減らす指導をするべきなのか」という点でのご指摘を頂き、speaking 指導にあたっては個人の speech style について考慮する必要性に改めて気が付かされました。

大学では初めての英語での論文執筆に加えて、ゼミ長としての運営面での苦労も絶えませんでした。しかし仲間と切磋琢磨しながら書き上げた卒業論文ですので、このように発表させていただくことができ大変光栄です。今回得た新しい知識を活かし、4月からは常に学び研究を続ける教員としてさらに精進します。

“Computer-mediated corrective feedback on L2 acquisition: A meta-analysis”

土居 篤司 (関西大学)

この度は、このような貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。今回が初めての発表でしたが、コメンテーターの先生や、会場にいらっしやった先生からアドバイスやコメントをいただき、自身が行った研究をより深く顧みる契機となりました。

私は、Aubrey and Shintani (2021)の分類に基づいて、教師がコンピュータを媒介して与えるフィードバックが第二言語習得にどれほど効果的であるかをという研究を発表させていただきました。私はこれまで様々なライティングのフィードバックを受けてきましたが、どのタイプのフィードバックがより効果的であるのかを調べたいということが研究の動機となりました。メタ分析は、さまざまなプロセスを経て、全体的にどのような傾向にあるかなどを明らかにするものですが、文献の取捨選択や研究に含めるデータの入力において、間違いがないように慎重に進める必要があったため、苦労の多い研究でしたが、とてもやりがいのある研究でした。

また、私は4月から大学院生としての生活が始まりますが、研究を通して分かったことを踏まえて、さらに吟味し、今後の研究に役立てたいと考えております。そして、修士論文を発表する際には、今回よりも成長した姿で発表できたらと思います。

学会事務局からのお知らせ

学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2023年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは、同封のお知らせをご覧ください。

関西英語教育学会 第29回研究大会のお知らせ

日 程：2023年6月10日（土）・11日（日）

会 場：大阪教育大学 天王寺キャンパス
（対面で開催予定）

〒543-0054

大阪府大阪市天王寺区南河堀町 4-88

アクセス：JR 大阪環状線「寺田町駅」より徒歩8分

参加費：会員 無料

非会員（一般） 2,000円

非会員（学部学生・大学院生） 1,000円

*学生証をご提示ください。提示がない場合には一般参加費となります。

参加登録：参加申し込みフォームから事前登録をお願いします。非会員の方は、事前登録した上で、当日受付で参加費をお支払いください。

当日参加も受け付けますが、事前登録いただく受付がスムーズです。

プログラム：セミナー・ワークショップを鋭意企画中です。プログラム等詳細が決まり次第、随時特設ウェブサイトにてお知らせいたします。

年次大会特設ウェブサイト：

<https://sites.google.com/view/keles2023>

発表募集／Call for Presentation：

研究発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集中です。発表申込締切は5月9日（火）です。詳細は同封の発表募集チラシ、特設ウェブサイトをご覧ください。



全国英語教育学会 第48回香川研究大会

日 程：2023年8月19日（土）・20日（日）

開催形態：対面（予定）

会 場：香川大学教育学部

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/>

アクセス（香川大学教育学部 HP から）：

JR

高德線「高松駅」→「昭和町駅」下車徒歩5分

バス

○まちなかループバス「JR 高松駅」→「香川大学教育学部前」下車徒歩2分

○弓弦羽行「JR 高松駅」→「幸町」または「宮脇町」下車徒歩3分

○西香車庫行「JR 高松駅」→「宮脇町」下車徒歩3分

タクシー

JR 高松駅→香川大学約10分 約800円

徒歩

○JR 高松駅より約20分

○ことでん瓦町駅より約20分

その他問い合わせについて

下記に関するお問い合わせは、フォームから事務局にお知らせください。

学会費・学会誌・研究大会・各種セミナー・入退会・会員情報の変更・その他

今年度第2号からニューズレターは、PDF化して会員様宛に一斉メール配信をしております。もしも届いていない場合は、迷惑メールに入っていないかご確認ください。迷惑メールにも入っていない場合は、お手数ですが kelesoffice@gmail.com まで、メールアドレスをお知らせください。また、その際にはお名前、ご所属先も必ず記載してくださいよう、お願いいたします。